「居心地のよい学校づくり」
葉梨中学校区の取組紹介

藤枝市

“幸せになるまち”藤枝づくり

教育委員会　教育政策課

居心地のよい学校づくり

発達支持的
生徒指導

居心地のよい学校推進事業の趣旨

「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育」の実現を目指し、「居場所づくり」「絆づくり」を大切にした不登校やいじめ等の未然防止の視点から居心地のよい学校づくりを推進する。併せて人間関係づくりプログラムを活用し、効果検証をしていく。

居心地のよい学校づくり

魅力ある学校づくりとは…

　具体的には児童生徒にとって、「自己が大事にされているか」、「自分の存在を認識されていると感じることができるか、かつ精神的な充実感を得られる心の居場所となっているか」、さらに、「教師や友人との心の結び付きや信頼感の中で共同の活動を通して社会性を身に付けるきずなづくりの場となっているか」、「学校が児童生徒にとって大切な意味のある場となっているか」等について問い直すなど、魅力ある学校づくりを目指すことが求められている。全ての児童生徒にとって、学校が安心感・充実感が得られる活動の場であることが重要である。

居場所づくりと絆づくり

全ての児童生徒の
「心の居場所」

全ての児童生徒の
「絆づくりの場所」

そのために

全ての教育活動において

そのために

教職員が、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を提供する。
【安心安全な学校づくり】

児童生徒が、主体的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく。
【場と機会の設定】

きっかけは教師

現在の教育活動を「居場所づくり」と「絆づくり」の**視点で捉え直し、**
共通理解のもと取り組む。

居場所づくりと絆づくり

全ての児童生徒の「心の居場所」

全ての児童生徒の「絆づくりの場」

「授業」

わかる授業を行い、主体的な学習態度を養う

ともに学び合うことの意義と大切さを実感する

「行事」

自主的、実践的な態度や健全な生活態度を養う

より大きな集団の一員として、役割を分担し合って協力し合う態度を学ぶ

関わるすべての教職員が、生徒指導のポイントを押さえながら、「居場所づくり」「絆づくり」をキーワードに、「未然防止」に取り組む。（**発達支持的生徒指導**）

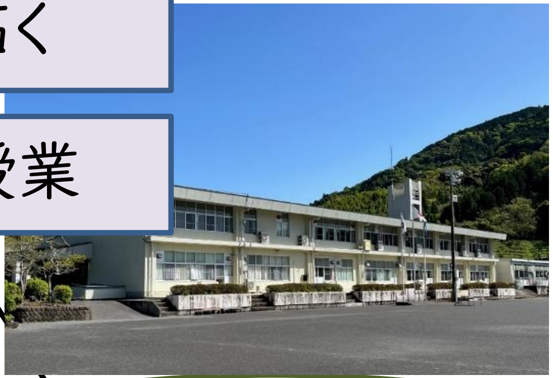
葉梨中学校区の紹介

葉梨中学校

【学校教育目標】夢を拓く

【研修テーマ】心が動く授業

葉梨小学校



葉梨西北小学校

教務主任が担当者＝ボトムアップの取組を目指す。

居心地のよい学校づくりにおける取組紹介

1　基本的な取組
（PDCAシートの効果的な活用）

2　学習指導と生徒指導の一体化の推進
「授業で人を育てる」

3　「葉梨スタンダード」の推進

4　ふじえだ型ピア・サポート活動の推進

5　児童会・生徒会活動の充実

6　小中一貫教育

Ⅰ　基本的な取組（PDCAシートの効果的な活用）

＜評価項目＞

ア　学校生活が楽しい

イ　仲間と協力できている

ウ　授業に主体的に取り組んでいる

エ　授業がわかる

意識調査（アンケート）

教職員と子どものズレに着目

分析

実践の振り返り

目標設定

具体的な手立て

指導実践

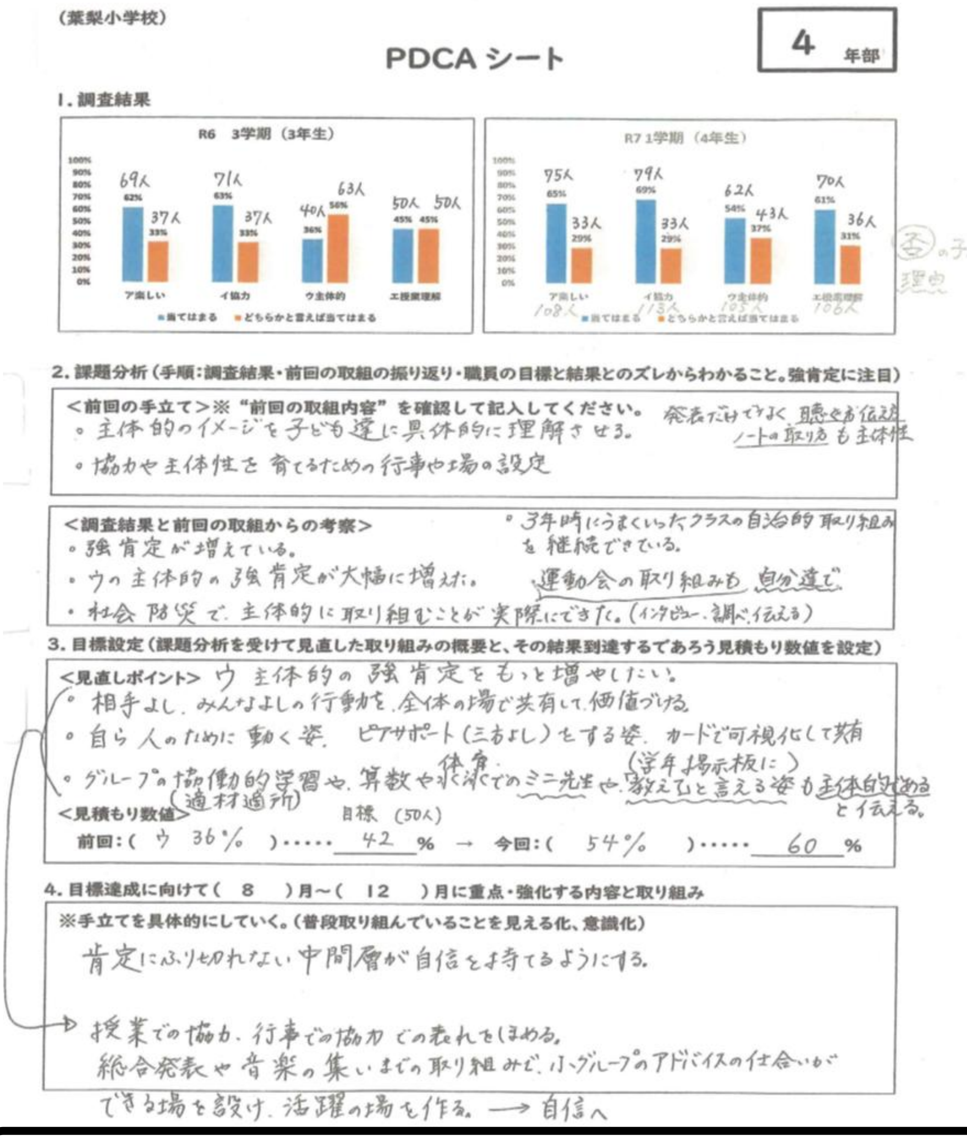
子どものあらわれ把握

中学校区共通のシート使用

PDCAサイクルを回しながら計画的、組織的な取組を検証する。（年間3回）

子どもの声に耳を傾け、日々の指導・教育実践に活かす。

Ⅰ　基本的な取組（PDCAシートの効果的な活用）


（葉梨小学校）

PDCA シート　　4 年部

1. 調査結果

2. 課題分析（手順：調査結果・前回の取組の振り返り・職員の目標と結果とのズレからわかること。強肯定に注目）

<前回の手立て>※"前回の取組内容"を確認して記入してください。
- 主体的のイメージを子ども達に具体的に理解させる。　発表だけでなく聴き方伝え方 ノートの取り方も主体性
- 協力や主体性を育てるための行事や場の設定

<調査結果と前回の取組からの考察>
- 強肯定が増えている。
- ウの主体的の強肯定が大幅に増えた。
- 社会 防災で 主体的に取り組むことが実際にできた。（インタビュー、調べ、伝える）
- 3年時にうまくいったクラスの自治的取り組みを継続できている。
- 運動会の取り組みも自分達で

3. 目標設定（課題分析を受けて見直した取り組みの概要と、その結果到達するであろう見積もり数値を設定）

<見直しポイント> ウ 主体的の強肯定をもっと増やしたい。
- 相手よし、みんなよしの行動を、全体の場で共有して価値づける。
- 自ら人のために動く姿、ピアサポート（三方よし）をする姿、カードで可視化して共有
- グループの協働的学習（適材適所）や、算数や体育でのミニ先生や、（学年掲示板に）教えてと言える姿も主体的であると伝える。

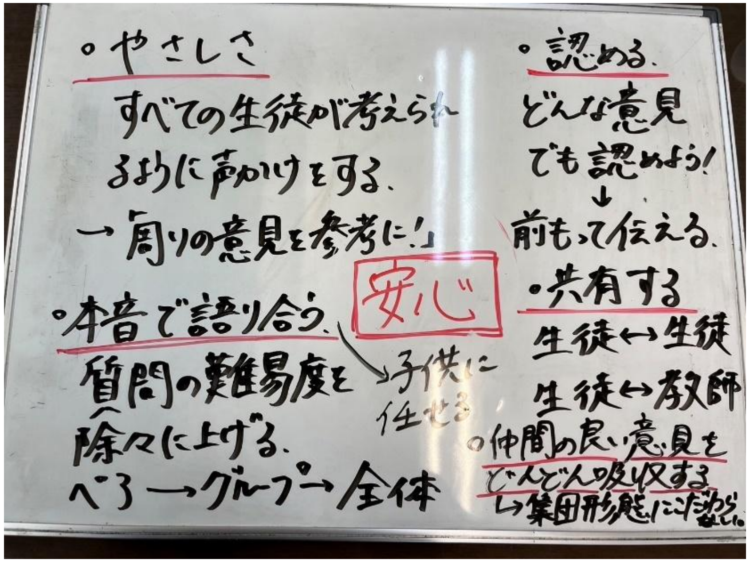
<見積もり数値>　目標（50人）
前回：（ウ 36%）……42 %　→　今回：（54%）……60 %

4. 目標達成に向けて（ 8 ）月～（ 12 ）月に重点・強化する内容と取り組み

※手立てを具体的にしていく。（普段取り組んでいることを見える化、意識化）

肯定にふりきれない中間層が自信を持てるようにする。

▷ 授業での協力、行事での協力での表れをほめる。
総合発表や音楽の集いまでの取り組みで、小グループのアドバイスの仕合いができる場を設け、活躍の場を作る。 ⟶ 自信へ



少なくとも学年部の指導の方向性と**具体的な手立て**を共有する。

Ⅰ　基本的な取組（PDCAシートの効果的な活用）

児童生徒の実態を把握します。
実態把握には「子どもの意識調査」を活用します。

ア　学校が楽しい
イ　みんなで何かをするのは楽しい
ウ　授業に主体的に取り組んでいる
エ　授業がよくわかる

教職員と子どものズレに着目

1　当てはまる
2　どちらかと言えば当てはまる
3　どちらかと言えば当てはまらない
4　当てはまらない

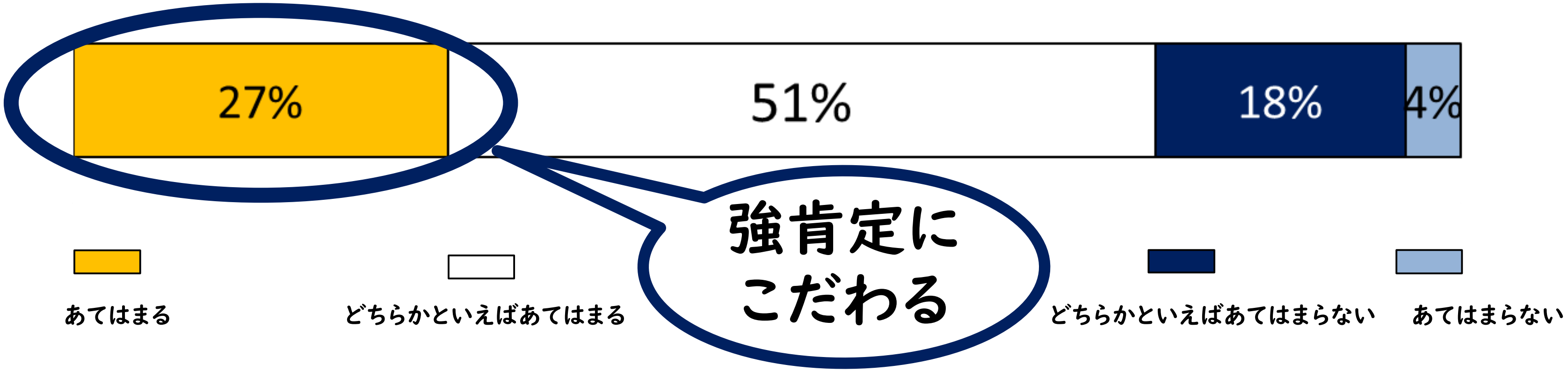
必要最小限の調査で負担軽減を図りながら意味のある取組
①無記名式　②学年単位で集計　**③「当てはまる」のみ焦点化**

Ⅰ　基本的な取組（PDCAシートの効果的な活用）

子どもの意識調査のどこに着目するか。

実践の振り返り

ウ　授業に主体的に取り組んでいる



① 肯定的評価が78%と捉えたとき、課題として目がいくのはどこ？

② 強肯定評価が27%と捉えたとき、課題として目がいくのはどこ？

より多くの子どもに目を向ける→**すべての子どもを対象とする**

Ⅰ　基本的な取組（PDCAシートの効果的な活用）

子どもの意識調査で**わかること。**
子どもの「**居場所、絆づくりの浸透度**」と
教職員の感覚との**ずれ**

⇩

適切な点検
何故ずれたのか、取組のどこに原因があったのか、どう修正していくのかを、対話を通して確認する。

⇩

教職員と子どものズレに着目

学校・学年単位
ずれのない
具体的な取組

○道徳と総合の授業で、生徒が中心発問を考える。
△授業に自己決定の場面を取り入れる。

具体的な手立て

具体的な手立てを考え、共通の指導・実践とする。

１　基本的な取組（PDCAシートの効果的な活用）

【課題】

・直ぐに目標設定に進んでしまうため、分析が甘くなってしまう。
・設定した目標を達成するための手立てが具体的ではない。

【改善方法】

・PDCAシートの様式を改善。
・毎週、打合せのタイミングに短時間で振り返る機会の設定。

【先生方の意識の高まり】

・もっと子どもたちの声に耳を傾けたいから、聴き取りをする。
・数値は下がったが、子どものよい現れを目にする機会は増えているから、もう少し今の手立てを続ける。
・分掌部会でも、居場所づくりと絆づくりを意識して取組を整理。

Ⅰ　基本的な取組（PDCAシートの効果的な活用）

＜評価項目＞
ア　学校生活が楽しい
イ　仲間と協力できている
ウ　授業に主体的に取り組んでいる
エ　授　がわかる

強肯定にこだわる

焦点化

意識調査（アンケート）

子どものあらわれ把握

教職員と子どものズレに着目

指導実践

PDCAサイクルを回しながら計画的、組織的な取組を検証する。（年間3回）

分析

具体的な手立て

目標設定

実践の振り返り

中学　共通

学習指導と生徒指導の一体化

子どもの声に耳を傾け、日々の指導・教育実践に活かす。

2 学習指導と生徒指導の一体化の推進「授業で人を育てる」

授業で人を育てる【藤枝市】

<藤枝市の授業づくり指針>　令和６年３月

授業で人を育てる

藤枝市が長年培ってきた「授業で人を育てる」という教育理念は、全ての教員が子供一人一人を輝かせるために授業改善を行い、自分自身の授業観や子供観を磨き続けることで継承されていくものです。

私たち藤枝市の教員は、子供に寄り添い、一緒に授業をつくり笑顔をつないでいくことで、豊かな未来を切り拓いていく子供を育てます。

『授業で人を育てる』
藤枝型授業モデル
藤枝市教育委員会
平成 27 年２月

Ⅰ　子供が自ら育つ「藤枝市の目指す授業」

- 子供が目を輝かせ、教科の本質を主体的に追究する授業
- 子供が相手意識をもって、温かく聴き真剣に語る授業
- 子供が自然に相談を始めたり立ち止まって考えたりする「間」を大切にした授業
- 自分や友達のよさに気づき、子供の自己肯定感が育つ授業

Ⅱ　子供が自ら育つ「授業づくりの基本」

育成を目指す資質・能力を明確にし、単元や題材を構想します

教科の学び

人としての学び

- 子供の内側からわき出る問いや驚き
- 個で考え抜く時間の確保
- 学びを深めるための教師の出番
- 効果的な ICT の活用
- 子供が見通しをもって学び自分の言葉で振り返る

指導と評価の一体化を図り、見取りと価値付けを丁寧に行います

多様な他者との関わりを通して、協働的な学びの充実を図ります

自己決定　相手との関わり

存在感　人間的ふれあい　発達の可能性

Ⅲ　子供が自ら育つ「授業の基盤」

- 子供同士、子供と教師の温かな人間関係を大切にし、信頼関係を構築します
- 誰もが安心して自分を表現でき、学び合える学級集団をつくります
- 子供を信じ、子供のよさや可能性を見取る目とそれを価値付ける感性を磨きます
- 子供一人一人の多様な学びを保障し、子供にとって学びやすい環境を整えます

第２期藤枝市教育振興基本計画　教育大綱
概要版　令和５年３月

授業で人を育てる 大切にしたい 5つの考え方

- 存在感
- 相手との関わり
- 自己決定
- 人間的ふれあい
- 発達の可能性

２ 学習指導と生徒指導の一体化の推進「授業で人を育てる」

生徒指導提要
生徒指導実践上の
4つの視点

- 自己存在感の感受への配慮
- 共感的な人間関係の育成
- 自己決定の場の提供
- 安全･安心な風土の醸成

→

授業で人を育てる
大切にしたい
5つの考え方

- 存在感
- 相手との関わり
- 自己決定
- 人間的ふれあい
- 発達の可能性

→

藤枝市「授業で人を育てる」

2 学習指導と生徒指導の一体化の推進 「授業で人を育てる」

5つの考え方を機能させた授業

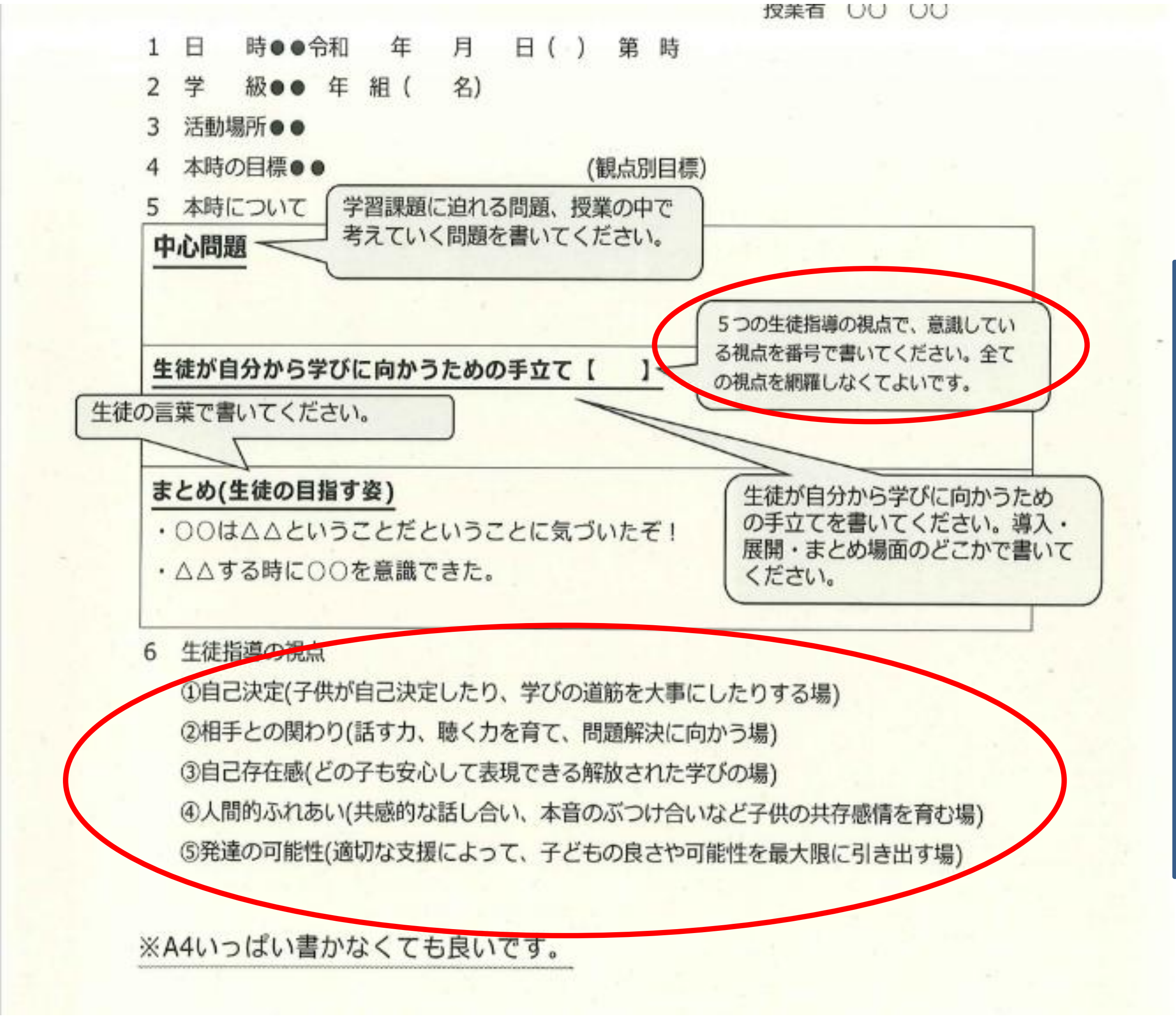
＜学習指導の視点＞
・主体的で対話的な学びを実践し、自己の考えをもち、広げる。

（例）自分の立場を明らかにして話し合う場面

＜生徒指導の視点＞
・共感的な人間関係を育み、互いの考えを肯定的に認め合い、尊重する子を育てる。
・自己決定の場を提供し主体的に取り組む子を育てる。

学習活動が生徒指導でもあることを
意識して意図的に組み込む

2 学習指導と生徒指導の一体化の推進 「授業で人を育てる」



授業者 ○○ ○○

1 日 時●●令和 年 月 日（ ） 第 時

2 学 級●● 年 組（ 名）

3 活動場所●●

4 本時の目標●● （観点別目標）

5 本時について

学習課題に迫れる問題、授業の中で考えていく問題を書いてください。

中心問題

5つの生徒指導の視点で、意識している視点を番号で書いてください。全ての視点を網羅しなくてよいです。

生徒が自分から学びに向かうための手立て【 】

生徒の言葉で書いてください。

まとめ(生徒の目指す姿)

・○○は△△ということだということに気づいたぞ！

・△△する時に○○を意識できた。

生徒が自分から学びに向かうための手立てを書いてください。導入・展開・まとめ場面のどこかで書いてください。

6 生徒指導の視点

①自己決定(子供が自己決定したり、学びの道筋を大事にしたりする場)

②相手との関わり(話す力、聴く力を育て、問題解決に向かう場)

③自己存在感(どの子も安心して表現できる解放された学びの場)

④人間的ふれあい(共感的な話し合い、本音のぶつけ合いなど子供の共存感情を育む場)

⑤発達の可能性(適切な支援によって、子どもの良さや可能性を最大限に引き出す場)

※A4いっぱい書かなくても良いです。

生徒指導の視点を活かした授業案を作成し、授業と生徒指導の一体化を実現するための工夫を行っている。

2 学習指導と生徒指導の一体化の推進 「授業で人を育てる」

5つの考え方を機能させた授業を参観した感想

・意図的なグループづくりを日々の授業から行っているため、生徒も安心して対話活動に取り組めていると思った。

・自己決定したことを表現する場があるため、生徒は主体的に学習に取り組んでいたと感じた。

・全ての生徒が中心問題に向き合えるようにするために、教師の丁寧な机間指導（声かけ）が効果的だったと感じた。

３「葉梨スタンダード」の推進

葉梨スタンダードとは…

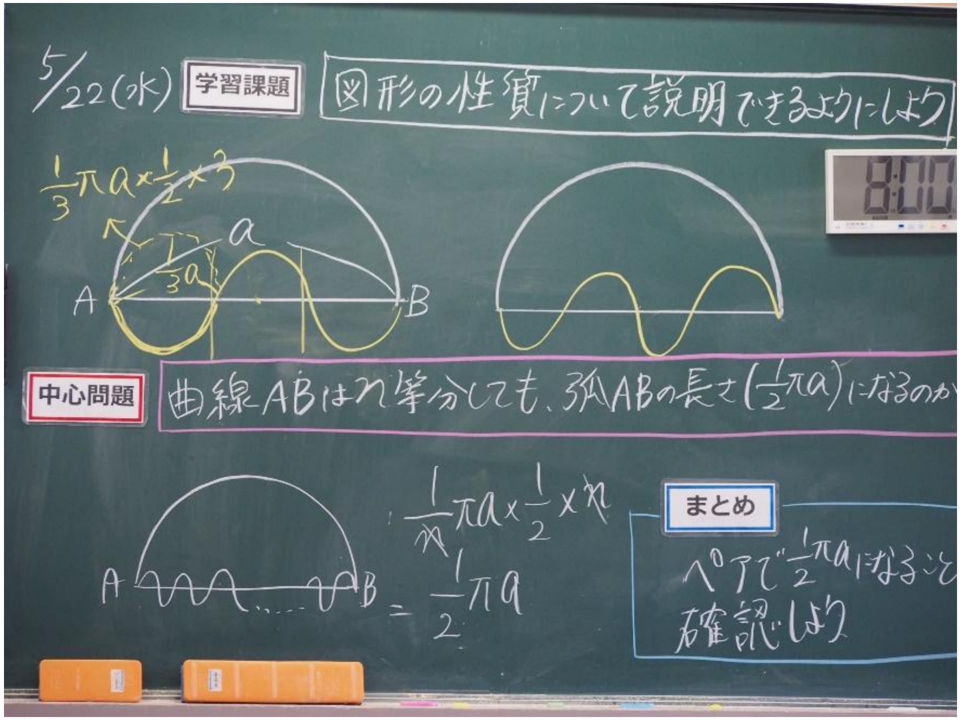
　生徒の多様な学びを支える方法の一つとして、特別支援教育の視点を生かした“学習環境作り”や“学習支援”を推進する取組。

３「葉梨スタンダード」の推進

＜学習環境の整備＞
教室前面をスッキリとさせ、刺激量を調整する取組

３「葉梨スタンダード」の推進

＜学習支援＞
ユニバーサルデザイン化の取組



- 学習カード
- 電子黒板で提示
- かな、一文一動詞
- 学習課題は白で
- 中心問題は赤で
- まとめは青で

4 ふじえだ型ピア・サポート活動の推進

ふじえだ型ピア・サポート活動とは…

　これまで各校で実践されてきた教育活動（授業、行事、縦割り活動など）をピア・サポート（仲間による支援）の視点で見直し、「支え合い」や「かかわり合い」などの活動（場面）を今まで以上に大切にして意図的・計画的に取り組みながら、友達（仲間・ピア）を思いやり、支え合う学校風土をつくっていこうとする活動。

4 ふじえだ型ピア・サポート活動の推進

運動会やスポーツテスト、百人一首練習など、様々な活動や行事をペアや異学年と行うことで、子どもたちが自然とピアサポートする姿が生まれている。
また、子ども達が見つけた友達のピア・サポートや自分が行ったピア・サポートを「ピア・サポートカード」に記入し、ポストに入れると、昼の放送で紹介した後に掲示するなどしてピア・サポート活動の推進に努めている。

5 児童会･生徒会活動の充実

児童会･生徒会が自分たちの生活する学校を居心地のよい空間にするために話し合った。

例えば、西北小学校では全校児童による話し合いの場をもち、そこで決まった縦割り集団のゲームに取り組んだ。

葉梨小学校では、「葉梨っ子の玉手箱」と題し、一芸を披露する機会を設けた。

また、葉梨中学校では校則の見直しに取り組んだ。

6 小中一貫教育の充実

葉梨小学校と葉梨西北小学校は授業や昼休み、遠足などで積極的に小小交流をしている。
また、葉梨中学校区では、中学生による小学生の読み聞かせやあいさつ運動、職場体験などで小中交流が充実している。

居心地のよい学校づくりの効果

【先生方の感想】

○学校運営の面でそれぞれの分掌が同じ方向を目指し、組織的に活動ができていると言える。また、学年運営において、短期間でPDCAサイクルを回すことにより、学年部が力を入れるところが共有され、一枚岩となって子どもたちの成長に寄与できていると感じる。

○3～4か月のスパンで、子ども一人ひとりの状態を掴んでいく取り組みは、効果的だった。人間関係の変化や、学校・家庭生活の変化などに、早めに気づけたことは大きく、現在の落ち着いた生活や学習への取組につながっている。読書量も大きく増えたこともうれしい結果。生徒指導は早期発見、早期対応が重要だが、日ごろから生徒指導が機能していることを感じる。

○どの子も安心できる環境づくりや子どもの「～したい」という思いに寄り添った活動など、以前より意識して学級経営や授業づくりができた。また、不登校の子どもは、先日の社会科見学に行くことができた。今後も保護者や子どもとのつながりを大切にして、どの子も居場所のよさを感じる場所づくりに取り組みたい。

居心地のよい学校づくりの効果

【先生方の感想】

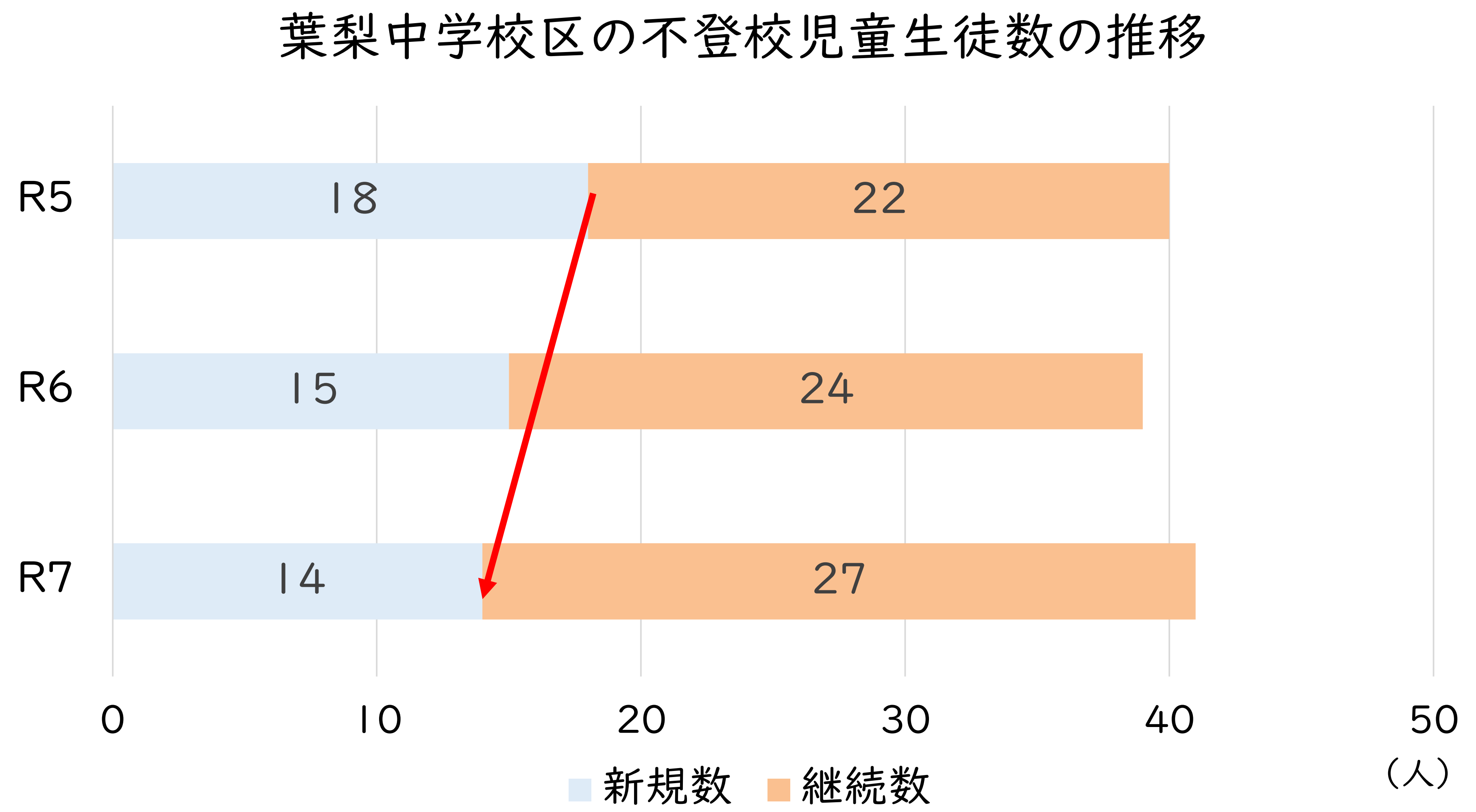
●「居心地のよい」という言葉のもつイメージからか、子供の心理的安全性を作り出すことだけに注力して授業づくりをしようとする傾向から、なかなか変わっていけない時期があった。「子供に自己決定の場を提供する」という視点で、授業づくりや子供の学びを提供する教師の役割について継続して研修をすすめていけたらと考える。

●学活の時間の確保ができなかったり、会議の時間を増やしたりする等の問題点も出てくるところが悩ましい所であると感じる。

●アンケート内容は、教育課程や学校評価アンケートと重複する項目が多く、とる時期もほぼ同じになるため、取り方を工夫する必要があった。

●「居心地のよい」とは、子供たちがどういう状態であれば達成できたといえるのかが曖昧で分かりにくかった。子供にとって「居心地がよい」とは、どういうことなのか子供に聞いて言語化してもらうのもありなのかなと思う。

居心地のよい学校づくりの効果



新規不登校者を抑制することができた。

居心地のよい学校づくりの効果

不登校児童生徒数（新規数・継続数）の推移

	小１	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３	支援級	合計
Ｒ５新規数	0	3	1	2	2	5	3	1	1	0	18
Ｒ５継続数	0	0	1	3	1	2	6	4	4	0	21
Ｒ６新規数	1	0	0	3	2	1	2	3	1	2	15
Ｒ６継続数	0	0	1	2	4	2	5	6	2	2	24
Ｒ７新規数	0	0	2	4	0	3	1	3	0	1	14
Ｒ７継続数	0	0	0	0	3	6	3	6	8	1	27

いわゆる中１ギャップの解消につながった。

今後について

３年間の指定研究は終了しましたが、葉梨中学校区は次年度も引き続き、3年間の取組から得られた知見を活かし、居心地のよい学校づくりを推進していきます。